

「以藝術之名：香港當代藝術展」のオープニングナイト(2015年)



「以藝術之名：香港當代藝術展」の展示風景(2015年)



「白立方之内—陳逸堅個展」の展示風景(2016年)

元々が小学校として造られた台北當代藝術館の建物。実は、現在でも美術施設と学校が同居している。建国民中学と台北當代藝術館が、古跡に指定された建物を共有しているのだ。そのため、2つの施設の間では、学校施設をアーティストが滞在制作のためのレジデンスとして利用したり、学校側が授業の一貫として美術鑑賞を取り入れるなど、様々なコラボレーション活動を実施し、数多くの成果を上げてきたのだ。

に転換した初めての例である。展示室の多くは、小学校時代に教室として使われていた小さな部屋。他の美術館のように設計段階から展示を意識して造られた施設ではないため制約も多いが、スタッフやアーティストが様々な工夫を凝らして、来館者の興味を引く展示を実現している。また、かつて講堂だった一室は広く、天井も高いので、他では展示できない大型作品を飾ることもできる。



台北當代藝術館

レトロな建物で出会う、最先端の現代美術。

台北市の代表的な繁華街である中山エリア。その出発点となる MRT「中山」駅からわずか5分ほどのところに、赤レンガ造りの古風な建物がある。それが、台北當代藝術館 II Museum of Contemporary Art, Taipei、略称 MOCA Taipei だ。この館は、現代美術に特化した台湾では初めての美術施設。2001年の開館以来、国内外の最も革新的で、先進的なアートを紹介してきた。

その外観からもわかるように、建物は長い歴史を持っている。建築年は1919年。日本統治時代にあたり、元々は建成小学校として造られた。外壁に赤レンガが使われたクラシカルな建築物は、日本人には東京

駅の駅舎を思い起こさせるだろう。第二次世界大戦後、建物の用途が変わり、1946年から1993年までは台北市政府の庁舎として利用されている。1994年には市庁舎がこの場所から信義計画区に移転。その2年後、日本の史跡・文化財にあたる「古跡」に指定された。建物を臺北市立美術館の分館として利用しようという計画もあったが、現代美術専門の展示施設が必要だという声が高まり、2001年の台北當代藝術館開館へとつながったのだ。

建物は内部を中心にリノベーションされた後、台北當代藝術館として新しいスタートを切った。古跡再利用の政策に基づいて古跡を美術施設